# Adjunction motivated by Stone-type dualities

#### hot inoue (@hot\_math)

#### January 25, 2022

#### Contents

1	準備	1
2	関手 $Lc$ : $\mathbf{Top} \to \mathbf{Loc}$ の構成	3
3	関手 $Sp: \mathbf{Loc} \to \mathbf{Top}$ の構成	6
4	随伴の構成	8

### 1 準備

定義 1.1. 集合  $L_0$  に対して、 $\langle L_0, \leq_L \rangle$  が半順序集合であるとは、 $\leq_L$  が  $L_0$  上の反射的かつ反対称的かつ推移的な二項関係であることをいう.

半順序集合 L に対して, L の台集合を  $L_0$  で, L を定める  $L_0$  上の二項関係を  $\leq_L$  で表す.

定義 1.2. 半順序集合 L, M に対して,  $f: L_0 \to M_0$  が単調写像であるとは,  $a \le_L a'$  を満たす任意の  $a, a' \in L_0$  に対して,  $f(a) \le_M f(a')$  であることをいう.

単調写像  $f: L_0 \to M_0, g: M_0 \to N_0$  を取る. 任意の  $a, a' \in L_0$  に対して,  $a \leq_L a'$  ならば,  $f(a) \leq_M f(a')$  であり,

$$(g\circ f)(a)=g(f(a))\leq_N g(f(a'))=(g\circ f)(a')$$

である. 故に,  $g\circ f$  は単調写像である. 半順序集合 L を取る. 任意の  $a,a'\in L_0$  に対して,  $a\leq_L a'$  ならば,

$$\mathrm{id}_{L_0}(a) = a \leq_L a' = \mathrm{id}_{L_0}(a')$$

だから、 $\mathrm{id}_{L_0}$  は単調写像である.以上より、半順序集合を対象として単調写像を射とする圏  $\mathbf{Pos}$  が定まる.

定義 1.3.  $L \in Ob(\mathbf{Pos}), L'_0 \subseteq L_0, a \in L_0$  を取る.

- 1. a が  $L'_0$  の上界 (resp. 下界) であるとは、任意の  $x' \in L'_0$  に対して  $x' \leq_L a$  (resp.  $a <_L x'$ ) が成り立つことをいう.
- 2. a が  $L'_0$  の最大元 (resp. 最小元) であるとは,  $a \in L'_0$  かつ a が  $L'_0$  の上界 (resp. 下界) であることをいう.
- 3. a が  $L'_0$  の上限 (resp. 下限) であるとは, a が  $L'_0$  の上界 (resp. 下界) の全体の最小元 (resp. 最大元) であることをいう.

 $L \in \mathrm{Ob}(\mathbf{Pos})$  を取る. L の最大元 (resp. 最小元) を  $1_L$  (resp.  $0_L$ ) で表し,  $L_0' \subseteq L_0$  の上限 (resp. 下限) を  $\bigvee_L L_0'$  (resp.  $\bigwedge_L L_0'$ ) 等で表す.  $L_0$  の任意の元は  $\emptyset$  の上界かつ下界だから,  $\bigvee_L \emptyset = 0_L$  かつ  $\bigwedge_L \emptyset = 1_L$  が成り立つ.  $a, a' \in L_0$  に対して $a \vee_L a' \coloneqq \bigvee_L \{a, a'\}$  (resp.  $a \wedge_L a' \coloneqq \bigwedge_L \{a, a'\}$ ) と定める.

定義 1.4.  $L \in \mathrm{Ob}(\mathbf{Pos})$  がフレームであるとは,任意の  $L_0' \subseteq L$  が上限と下限をもち,任意の  $L_0' \subseteq L_0$  と  $a \in L_0$  に対して  $(\bigvee_L L_0') \wedge_L a = \bigvee_{L,a' \in A} (a' \wedge_L a)$  が成り立つことをいう.

上の議論により、任意のフレームは最大元と最小元をもつ、特に,  $L \in \mathrm{Ob}(\mathbf{Pos})$  がフレームならば,  $L_0$  は空でない.

定義 1.5.  $L, M \in \mathrm{Ob}(\mathbf{Pos})$  をフレームとする.  $\mathbf{Pos}$  の射  $f \colon M \to L$  がフレーム準 同型であるとは,任意の  $M_0' \subseteq M_0$  に対して  $f(\bigvee_M M_0') = \bigvee_L f(M_0')$  であり,任意の  $a, b \in M$  に対して  $f(a \land_M b) = f(a) \land_L f(b)$  であり, $f(1_M) = 1_L$  であることをいう.

フレーム準同型  $f\colon N\to M,\,g\colon M\to L$  を取る. 任意の  $N_0'\subseteq N_0$  に対して,

$$(g\circ f)\bigg(\bigvee_N N_0'\bigg) = g\bigg(f\bigg(\bigvee_N N_0'\bigg)\bigg) = g\bigg(\bigvee_M f(N_0')\bigg) = \bigvee_L g(f(N_0')) = \bigvee_L (g\circ f)(N_0')$$

であり、任意の  $a,b \subseteq N_0$  に対して、

$$(g \circ f)(a \wedge_N b) = g(f(a \wedge_N b)) = g(f(a) \wedge_M f(b))$$
$$= g(f(a)) \wedge_L g(f(b)) = (g \circ f)(a) \wedge_L (g \circ f)(b)$$

であり,

$$(g \circ f)(1_N) = g(f(1_N)) = g(1_M) = 1_L$$

である. 故に,  $g \circ f$  はフレーム準同型である. フレーム L を取る. 任意の  $L_0' \subseteq L_0$  に対して,

$$id_L\left(\bigvee_L L_0'\right) = \bigvee_L L_0' = \bigvee_L id_L(L_0')$$

であり、任意の  $a,b \in L_0$  に対して、

$$id_L(a \wedge_L b) = a \wedge_L b = id_L(a) \wedge_L id_L(b)$$

であり、 $\mathrm{id}_L(1_L)=1_L$  である。故に、 $\mathrm{id}_L$  はフレーム準同型である。以上より、フレームを対象としてフレーム準同型を射とする圏 Frm が定まる。Frm の反対圏を Loc で表し、その対象をロケールとよぶ。Frm の射  $f\colon M\to L$  に対して、f に対応する Loc の射  $L\to M$  を  $f_*$  で表す。Loc の射  $\varphi\colon L\to M$  に対して、 $\varphi$  に対応する Frm の射  $M\to L$  を  $\varphi^*$  で表す。

### 2 関手 $Lc: Top \rightarrow Loc$ の構成

位相空間を対象として連続写像を射とする圏を **Top** で表す.  $X \in Ob(\mathbf{Top})$  の台集合 (resp. 位相構造) を  $X_0$  (resp.  $\tau_X$ ) で表す.  $X \in Ob(\mathbf{Top})$  に対して,

$$\mathsf{Lc}(X)_0 \coloneqq \tau_X, \leq_{\mathsf{Lc}(X)} \coloneqq \subseteq, \ \mathsf{Lc}(X) \coloneqq \langle \mathsf{Lc}(X)_0, \leq_{\mathsf{Lc}(X)} \rangle$$

と定める. 各  $X \in \text{Ob}(\mathbf{Top})$  に対して,  $\mathsf{Lc}(X) \in \text{Ob}(\mathbf{Pos})$  が分かる.

命題 **2.1.**  $X \in Ob(\mathbf{Top})$  に対して,  $Lc(X) \in Ob(\mathbf{Loc})$  である.

*Proof.* Lc(X) は最大元  $X_0$  と最小元  $\emptyset$  をもつので、

$$\bigvee_{\mathsf{Lc}(X)} \emptyset = 0_{\mathsf{Lc}(X)} = \emptyset$$

かつ

$$\bigwedge_{\mathsf{Lc}(X)} \emptyset = 1_{\mathsf{Lc}(X)} = X_0$$

である.続いて,空でない  $L'_0\subseteq \operatorname{Lc}(X)_0$  を任意に取る.先ず, $\bigcup L'_0$  が  $L'_0$  の上限 であることを示す. $\bigcup L'_0=\bigcup_{U'\in L'_0}U'\in\operatorname{Lc}(X)_0$  である.任意の  $U'\in L'_0$  に対して  $U'\subseteq\bigcup L'_0$  だから, $\bigcup L'_0$  は  $L'_0$  の上界である. $L'_0$  の上界  $U\in\operatorname{Lc}(X)_0$  を任意に取るとき,任意の  $U'\in L'_0$  に対して  $U'\subseteq U$  だから, $\bigcup L'_0\subseteq U$  を得る.故に  $\bigvee_{\operatorname{Lc}(X)}L'_0=\bigcup L'_0$  が成り立つ.続いて, $\bigcap L'_0$  の内部  $(\bigcap L'_0)^\circ$  が  $L'_0$  の下限であることを示す  $(L'_0$  は空でないから  $\bigcap L'_0$  は集合であることに注意する).

$$\left(\bigcap L_0'\right)^\circ = \bigcup_{U' \in \operatorname{Lc}(X)_0, \, U' \subseteq \bigcap L_0'} U' \in \operatorname{Lc}(X)_0$$

である. 任意の  $U' \in L'_0$  に対して

$$\left(\bigcap L_0'\right)^{\circ} \subseteq \bigcap L_0' \subseteq U'$$

だから、 $(\bigcap L_0')^\circ$  は  $L_0'$  の下界である。 $L_0'$  の下界  $U \in Lc(X)_0$  を任意に取るとき、任意の  $U' \in L_0'$  に対して  $U \subseteq U'$  だから, $U \subseteq \bigcap L_0'$  であり,内部の最大性から  $U \subseteq (\bigcap L_0')^\circ$  を得る。故に  $\bigwedge_{Lc(X)} L_0' = (\bigcap L_0')^\circ$  が成り立つ。特に, $U, V \in Lc(X)_0$  に対して,

$$U \wedge_{\mathsf{Lc}(X)} V = \bigwedge_{\mathsf{Lc}(X)} \{U,V\} = \left(\bigcap \{U,V\}\right)^{\circ} = (U \cap V)^{\circ} = U \cap V$$

が従う. また,  $L_0' \subseteq A$  と  $U \in Lc(X)_0$  を任意に取るとき,

$$\begin{split} \left(\bigvee_{\mathsf{Lc}(X)} L_0'\right) \wedge_{\mathsf{Lc}(X)} U &= \left(\bigcup L_0'\right) \wedge_{\mathsf{Lc}(X)} U = \left(\bigcup L_0'\right) \cap U \\ &= \left(\bigcup_{U' \in L_0'} U'\right) \cap U = \bigcup_{U' \in L_0'} (U' \cap U) \\ &= \bigcup_{U' \in L_0'} \left(U' \wedge_{\mathsf{Lc}(X)} U\right) = \bigvee_{\mathsf{Lc}(X), U' \in L_0'} \left(U' \wedge_{\mathsf{Lc}(X)} U\right) \end{split}$$

が成り立つ. 以上より,  $Lc(X) \in Ob(\mathbf{Frm}) = Ob(\mathbf{Loc})$  を得る.

 $f\colon X\to Y$  を **Top** の射とする.  $V\in \mathsf{Lc}(Y)_0$  ならば,  $f^{-1}(V)\in \mathsf{Lc}(X)_0$  である. また,  $V,V'\in \mathsf{Lc}(Y)_0$  に対して,  $V\subseteq V'$  ならば  $f^{-1}(V)\subseteq f^{-1}(V')$  である. 故に, fは **Pos** の射

$$\operatorname{Lc}(f)^* \colon \operatorname{Lc}(Y) \to \operatorname{Lc}(X), V \mapsto f^{-1}(V)$$

を定める.

命題 **2.2.** Top の射  $f: X \to Y$  に対して,  $\mathsf{Lc}(f)^* \colon \mathsf{Lc}(Y) \to \mathsf{Lc}(X)$  は Frm の射である. 即ち,

$$Lc(f) := (Lc(f)^*)_* : Lc(X) \to Lc(Y)$$

は Loc の射である.

*Proof.* 任意の  $M'_0 \subseteq Lc(X)_0$  に対して,

$$\begin{split} \operatorname{Lc}(f)^* \biggl(\bigvee_{\operatorname{Lc}(Y)} M_0' \biggr) &= \operatorname{Lc}(f)^* \Bigl(\bigcup M_0' \Bigr) = f^{-1} \Bigl(\bigcup M_0' \Bigr) \\ &= f^{-1} \biggl(\bigcup_{V \in M_0'} V \biggr) = \bigcup_{V \in M_0'} f^{-1}(V) = \bigcup_{V \in M_0'} \operatorname{Lc}(f)^*(V) \\ &= \bigcup \operatorname{Lc}(f)^* (M_0') = \bigvee_{\operatorname{Lc}(X)} \operatorname{Lc}(f)^*(M_0') \end{split}$$

であり、任意の  $V, V' \subseteq Lc(Y)_0$  に対して、

$$\begin{split} \mathsf{Lc}(f)^* \big( V \wedge_{\mathsf{Lc}(Y)} V' \big) &= \mathsf{Lc}(f)^* \big( V \cap V' \big) = f^{-1}(V \cap V') = f^{-1}(V) \cap f^{-1}(V') \\ &= \mathsf{Lc}(f)^*(V) \cap \mathsf{Lc}(f)^*(V') = \mathsf{Lc}(f)^*(V) \wedge_{\mathsf{Lc}(X)} \mathsf{Lc}(f)^*(V') \end{split}$$

であり,

$$Lc(f)^*(1_{Lc(Y)}) = Lc(f)^*(Y) = f^{-1}(Y) = X = 1_{Lc(X)}$$

である. 故に,  $Lc(f)^*$  は Frm の射であり,  $Lc(f) = (Lc(f)^*)_*$  は Loc の射である.  $\square$ 

命題 **2.3.** Top の射  $f: X \to Y, g: Y \to Z$  に対して,  $\mathsf{Lc}(g \circ f) = \mathsf{Lc}(g) \circ \mathsf{Lc}(f)$  が成り立つ.  $X \in \mathsf{Ob}(\mathbf{Top})$  に対して,  $\mathsf{Lc}(\mathrm{id}_X) = \mathrm{id}_{\mathsf{Lc}(X)}$  である.

*Proof.* 任意の  $W \in Lc(Z)_0$  に対して,

$$\begin{split} \mathsf{Lc}(g \circ f)^*(W) &= (g \circ f)^{-1}(W) = f^{-1}(g^{-1}(W)) = f^{-1}(\mathsf{Lc}(g)^*(W)) \\ &= \mathsf{Lc}(f)^*(\mathsf{Lc}(g)^*(W)) = (\mathsf{Lc}(f)^* \circ \mathsf{Lc}(g)^*)(W) \end{split}$$

だから、 $Lc(g \circ f)^* = Lc(f)^* \circ Lc(g)^*$  であり、

$$\mathsf{Lc}(g \circ f) = (\mathsf{Lc}(g \circ f)^*)_* = (\mathsf{Lc}(f)^* \circ \mathsf{Lc}(g)^*)_* = (\mathsf{Lc}(g)^*)_* \circ (\mathsf{Lc}(f)^*)_* = \mathsf{Lc}(g) \circ \mathsf{Lc}(f)$$

である. 任意の  $U \in Lc(X)_0$  に対して,

$$\mathsf{Lc}(\mathrm{id}_X)^*(U) = \mathrm{id}_X^{-1}(U) = U = \mathrm{id}_{\mathsf{Lc}(X)}(U)$$

だから,  $Lc(id_X)^* = id_{Lc(X)}$  であり,

$$\mathsf{Lc}(\mathrm{id}_X) = (\mathsf{Lc}(\mathrm{id}_X)^*)_* = (\mathrm{id}_{\mathsf{Lc}(X)})_* = \mathrm{id}_{\mathsf{Lc}(X)}$$

である. □

以上より、関手 Lc: **Top**  $\rightarrow$  Loc の構成が完了した.

### 3 関手 $Sp: Loc \rightarrow Top$ の構成

関手 Sp を構成する前に, **Top** での "点" に相当する概念を, **Loc** に於いて導入する.  $X \in \mathrm{Ob}(\mathbf{Top})$  に対して, 各  $x \in X_0$  は x の近傍系

$$\mathcal{U}_X(x) := \{ U \in \tau_X \mid x \in U \}$$

と密接に関係している.  $\mathsf{Lc}(X)$  に於ける近傍系のもつ性質を抽象化した  $\mathsf{cp}$  フィルターという概念を定める.

定義 3.1.  $L \in Ob(\mathbf{Loc})$  に対して,  $\mathcal{F} \subsetneq L_0$  が L の  $\mathbf{cp}$  フィルターであるとは, 以下 を満たすことをいう:

- 1.  $1_L \in \mathcal{F}$   $\mathcal{F}$   $\mathcal{F}$
- 2. 任意の  $a, b \in \mathcal{F}$  に対して,  $a \wedge_L b \in \mathcal{F}$  である.
- 3. 任意の  $a, b \in L_0$  に対して,  $a \leq_L b$  かつ  $a \in \mathcal{F}$  ならば  $b \in \mathcal{F}$  である.
- 4. 任意の  $L_0' \subseteq L_0$  に対して,  $\bigvee_L L_0' \in \mathcal{F}$  ならば  $a \in L_0'$  が存在して  $a \in \mathcal{F}$  を満たす.

 $L \in \mathrm{Ob}(\mathbf{Loc})$  に対して, L の cp フィルターの全体を  $\mathsf{Sp}(L)_0$  で表し,  $a \in L_0$  に対して

$$\Sigma_{L,a} := \{ \mathcal{F} \in \mathsf{Sp}(L)_0 \mid a \in \mathcal{F} \}$$

と定めて,

$$\tau_{\mathsf{Sp}(L)} \coloneqq \{\Sigma_{L,a} \mid a \in L_0\}, \ \mathsf{Sp}(L) \coloneqq \langle \mathsf{Sp}(L)_0, \tau_{\mathsf{Sp}(L)} \rangle$$

と定める.

命題 **3.2.**  $L \in \mathrm{Ob}(\mathbf{Loc})$  に対して,  $\tau_{\mathsf{Sp}(L)}$  は  $\mathsf{Sp}(L)_0$  上の位相構造である. 即ち,  $\mathsf{Sp}(L) \in \mathrm{Ob}(\mathbf{Top})$  が成り立つ.

*Proof.* 定義 3.1, 1 より, 任意の  $\mathcal{F} \in \mathsf{Sp}(L)_0$  に対して  $1_L \in \mathcal{F}$  だから,

$$\operatorname{Sp}(L)_0 = \Sigma_{L,1_L} \in \tau_{\operatorname{Sp}(L)}$$

である. 一方,  $\mathcal{F} \in \mathsf{Sp}(L)_0$  に対して,  $\mathcal{F} \subsetneq L_0$  より  $b_{\mathcal{F}} \in L_0 \setminus \mathcal{F}$  が取れ,  $0_L \leq_L b_{\mathcal{F}}$  と定義 3.1, 3 より  $0_L \in L_0 \setminus \mathcal{F}$  を得る. 故に  $0_L \in \mathcal{F}$  を満たす  $\mathcal{F} \in \mathsf{Sp}(L)_0$  は存在 せず,

$$\emptyset = \Sigma_{L,0_L} \in \tau_{\operatorname{Sp}(L)}$$

を得る.  $a,b \in L_0$  を取り、 $\mathcal{F} \in \mathsf{Sp}(L)_0$  を任意に取る.  $\mathcal{F} \in \Sigma_{L,a} \cap \Sigma_{L,b}$  ならば、 $\mathcal{F} \in \Sigma_{L,a}$  かつ  $\mathcal{F} \in \Sigma_{L,b}$  であり、 $a \in \mathcal{F}$  かつ  $b \in \mathcal{F}$  であり、定義 3.1、2 より

 $a \wedge_L b \in \mathcal{F}$  であり、 $\mathcal{F} \in \Sigma_{L,a \wedge_L b}$  である.また、 $\mathcal{F} \in \Sigma_{L,a \wedge_L b}$  ならば、 $a \wedge_L b \in \mathcal{F}$  であり、 $a \wedge_L b \leq_L a$  かつ  $a \wedge_L b \leq_L b$  だから 定義 3.1、3 より  $a \in \mathcal{F}$  かつ  $b \in \mathcal{F}$  であり、 $\mathcal{F} \in \Sigma_{L,a}$  かつ  $\mathcal{F} \in \Sigma_{L,b}$  であり、 $\mathcal{F} \in \Sigma_{L,a} \cap \Sigma_{L,b}$  である.従って、

$$\Sigma_{L,a} \cap \Sigma_{L,b} = \Sigma_{L,a \wedge_L b} \in \tau_{\mathsf{Sp}(L)}$$

を得る.続いて、 $L'_0\subseteq L_0$  を取り、 $\mathcal{F}\in \operatorname{Sp}(L)_0$  を任意に取る. $\mathcal{F}\in \bigcup_{a\in L'_0}\Sigma_{L,a}$  ならば、 $a\in L'_0$  が存在して  $\mathcal{F}\in \Sigma_{L,a}$  を満たし、 $a\in \mathcal{F}$  であり、 $a\leq_L\bigvee_L L'_0$  だから 定義 3.1、3 より  $\bigvee_L L'_0\in \mathcal{F}$  であり、 $\mathcal{F}\in \Sigma_{L,\bigvee_L L'_0}$  である.また、 $\mathcal{F}\in \Sigma_{L,\bigvee_L L'_0}$  ならば、 $\bigvee_L L'_0\in \mathcal{F}$  であり、定義 3.1、4 より  $a\in L'_0$  が存在して  $a\in \mathcal{F}$  を満たし、 $\mathcal{F}\in \Sigma_{L,a}$  であり、 $\mathcal{F}\in \bigcup_{a\in L'_0}\Sigma_{L,a}$  である.従って、

$$\bigcup_{a \in L_0'} \Sigma_{L,a} = \Sigma_{L,\bigvee_L L_0'} \in \tau_{\operatorname{Sp}(L)}$$

を得る. 以上より,  $Sp(L) \in Ob(Top)$  が成り立つ.

命題 3.3. Frm の射  $f: M \to L$  と  $\mathcal{F} \in \mathsf{Sp}(L)_0$  に対して,  $f^{-1}(\mathcal{F}) \in \mathsf{Sp}(M)_0$  である.

Proof. 定義 3.1, 1 より

$$f(1_M) = 1_L \in \mathcal{F}$$

であり、 $1_M \in f^{-1}(\mathcal{F})$  を得る.  $a,b \in f^{-1}(\mathcal{F})$  ならば、 $f(a),f(b) \in \mathcal{F}$  であり、定義 3.1,1 より

$$f(a \wedge_M b) = f(a) \wedge_L f(b) \in \mathcal{F}$$

であり,  $a \wedge_M b \in f^{-1}(\mathcal{F})$  を得る.  $a, b \in M_0$  に対して,  $a \leq_M b$  かつ  $b \in f^{-1}(\mathcal{F})$  ならば, f は **Pos** の射だから  $f(a) \leq_L f(b)$  かつ  $f(b) \in \mathcal{F}$  であり, 定義 3.1, 3 より  $f(a) \in \mathcal{F}$  であり,  $a \in f^{-1}(\mathcal{F})$  である.  $M_0' \subseteq M_0$  に対して,  $\bigvee_M M_0' \in f^{-1}(\mathcal{F})$  ならば,

$$\bigvee_{L} f(M_0') = f\left(\bigvee_{M} M_0'\right) \in \mathcal{F}$$

であり、定義 3.1, 4 から  $a \in M_0'$  が存在して  $f(a) \in \mathcal{F}$  を満たし、 $a \in f^{-1}(\mathcal{F})$  である. 以上より、 $f^{-1}(\mathcal{F}) \in \operatorname{Sp}(M)_0$  を得る.

 $\varphi$ :  $L \to M$  を  $\mathbf{Loc}$  の射とする.  $\mathcal{F} \in \mathsf{Sp}(L)_0$  に対して、命題 3.3 より  $(\varphi^*)^{-1}(\mathcal{F}) \in \mathsf{Sp}(M)_0$  である. 故に、

$$\mathsf{Sp}(\varphi) \colon \mathsf{Sp}(L)_0 \to \mathsf{Sp}(M)_0, \mathcal{F} \mapsto (\varphi^*)^{-1}(\mathcal{F})$$

が定まる.

命題 **3.4.** Loc の射  $\varphi$ :  $L \to M$  に対して,  $\mathsf{Sp}(\varphi)$ :  $\mathsf{Sp}(L) \to \mathsf{Sp}(M)$  は Top の射である.

*Proof.* 任意の  $a \in M_0$  に対して,

$$\begin{split} \mathsf{Sp}(\varphi)^{-1}(\Sigma_{M,a}) &= \{ \mathcal{F} \in \mathsf{Sp}(L)_0 \mid \mathcal{F} \in \mathsf{Sp}(\varphi)^{-1}(\Sigma_{M,a}) \} \\ &= \{ \mathcal{F} \in \mathsf{Sp}(L)_0 \mid \mathsf{Sp}(\varphi)(\mathcal{F}) \in \Sigma_{M,a} \} \\ &= \{ \mathcal{F} \in \mathsf{Sp}(L)_0 \mid (\varphi^*)^{-1}(\mathcal{F}) \in \Sigma_{M,a} \} \\ &= \{ \mathcal{F} \in \mathsf{Sp}(L)_0 \mid a \in (\varphi^*)^{-1}(\mathcal{F}) \} \\ &= \{ \mathcal{F} \in \mathsf{Sp}(L)_0 \mid \varphi^*(a) \in \mathcal{F} \} = \Sigma_{L,\varphi^*(a)} \end{split}$$

が成り立つ. 故に、任意の  $a \in M_0$  に対して

$$\operatorname{Sp}(\varphi)^{-1}(\Sigma_{M,a}) = \Sigma_{L,\varphi^*(a)} \in \tau_{\operatorname{Sp}(L)}$$

であり,  $\mathsf{Sp}(\varphi) \colon \mathsf{Sp}(L) \to \mathsf{Sp}(M)$  は  $\mathbf{Top}$  の射である.

命題 **3.5.** Loc の射  $\varphi$ :  $L \to M$ ,  $\psi$ :  $M \to N$  に対して,  $\operatorname{Sp}(\psi \circ \varphi) = \operatorname{Sp}(\psi) \circ \operatorname{Sp}(\varphi)$  が成り立つ.  $L \in \operatorname{Ob}(\operatorname{Loc})$  に対して,  $\operatorname{Sp}(\operatorname{id}_L) = \operatorname{id}_{\operatorname{Sp}(L)}$  である.

*Proof.* 任意の  $\mathcal{H} \in \mathsf{Sp}(N)_0$  に対して,

$$\begin{aligned} \mathsf{Sp}(\psi \circ \varphi)(\mathcal{H}) &= ((\psi \circ \varphi)^*)^{-1}(\mathcal{H}) = ((\varphi^*) \circ (\psi^*))^{-1}(\mathcal{H}) = (\psi^*)^{-1}((\varphi^*)^{-1}(\mathcal{H})) \\ &= (\psi^*)^{-1}(\mathsf{Sp}(\varphi)(\mathcal{H})) = \mathsf{Sp}(\psi)(\mathsf{Sp}(\varphi)(\mathcal{H})) = (\mathsf{Sp}(\psi) \circ \mathsf{Sp}(\varphi))(\mathcal{H}) \end{aligned}$$

だから,  $\mathsf{Sp}(\psi \circ \varphi) = \mathsf{Sp}(\psi) \circ \mathsf{Sp}(\varphi)$  である. 任意の  $\mathcal{F} \in \mathsf{Sp}(L)_0$  に対して,

$$\mathsf{Sp}(\mathrm{id}_L)(\mathcal{F}) = ((\mathrm{id}_L)^*)^{-1}(\mathcal{F}) = \mathrm{id}_L^{-1}(\mathcal{F}) = \mathcal{F} = \mathrm{id}_{\mathsf{Sp}(L)}(\mathcal{F})$$

だから, 
$$\mathsf{Sp}(\mathrm{id}_L) = \mathrm{id}_{\mathsf{Sp}(L)}$$
 である.

以上より, 関手  $Sp: Loc \rightarrow Top$  の構成が完了した.

### 4 随伴の構成

本節では、上で構成した関手 Lc, Sp が Top と Loc の間の随伴を導くことを示す. 集合を対象として写像を射とする圏を Set で表し、Top の反対圏を Top<sup>op</sup> で表し、 Top (resp. Loc) の恒等関手を  $id_{Top}$  (resp.  $id_{Loc}$ ) で表し、関手の合成を。で表す.  $Hom_{Loc}(Lc(-),-)$  (resp.  $Hom_{Top}(-,Sp(-))$ ) の恒等自然変換を  $id_{Hom_{Loc}(Lc(-),-)}$  (resp.  $id_{Hom_{Top}(-,Sp(-))}$ ) で表し、自然変換の合成を  $\odot$  で表す.

空位相空間  $\emptyset := \langle \emptyset, \{\emptyset\} \rangle \in \mathrm{Ob}(\mathbf{Top})$  に対して,  $\varepsilon_{\emptyset} \colon \emptyset_0 \to \mathsf{Sp}(\mathsf{Lc}(\emptyset))_0$  を包含写像とする. これは  $\mathbf{Top}$  の射  $\varepsilon_{\emptyset} \colon \emptyset \to \mathsf{Sp}(\mathsf{Lc}(\emptyset))$  を定める.

主張 **4.1.**  $X_0$  が空でない  $X \in \text{Ob}(\mathbf{Top})$  と  $x \in X_0$  に対して,  $\mathcal{U}_X(x) \in \mathsf{Sp}(\mathsf{Lc}(X))_0$  である.

Proof.  $1_{Lc(X)} = X_0$  であり,  $x \in X_0$  より

$$1_{\mathsf{Lc}(X)} = X_0 \in \mathcal{U}_X(x)$$

である.  $U, V \in \mathcal{U}_X(x)$  ならば,  $x \in U$  かつ  $x \in V$  であり,  $x \in U \cap V$  だから,

$$U \wedge_{\mathsf{Lc}(X)} V = U \cap V \in \mathcal{U}_X(x)$$

である.  $U, V \in Lc(X)_0$  が  $U \leq_{Lc(X)} V$  かつ  $U \in \mathcal{U}_X(x)$  を満たすならば,  $U \subseteq V$  かつ  $x \in U$  だから,  $x \in V$  であり,  $V \in \mathcal{U}_X(x)$  である.  $L'_0 \subseteq Lc(X)_0$  が  $\bigvee_{Lc(X)} L'_0 \in \mathcal{U}_X(x)$  を満たすならば,

$$x \in \bigvee_{\mathsf{Lc}(X)} L_0' = \bigcup L_0'$$

であり,  $U \in L'_0$  が存在して  $x \in U$  を満たし,  $U \in \mathcal{U}_X(x)$  である. 故に,  $\mathcal{U}_X(x) \in \mathsf{Sp}(\mathsf{Lc}(X))_0$  を得る.

 $X_0$  が空でない  $X \in \mathrm{Ob}(\mathbf{Top})$  を取る.  $x \in X_0$  に対して、主張 4.1 より  $\mathcal{U}_X(x) \in \mathrm{Sp}(\mathrm{Lc}(X))_0$  だから、

$$\varepsilon_X \colon X_0 \to \mathsf{Sp}(\mathsf{Lc}(X))_0, x \mapsto \mathcal{U}_X(x)$$

が定まる.

命題 **4.2.**  $X \in \mathrm{Ob}(\mathbf{Top})$  に対して,  $\varepsilon_X \colon X \to \mathsf{Sp}(\mathsf{Lc}(X))$  は  $\mathbf{Top}$  の射である.

Proof.  $X_0$  が空でない場合に示せば良い. 任意の  $U \in Lc(X)_0$  に対して,

$$\begin{split} \varepsilon_X^{-1}(\Sigma_{\mathsf{Lc}(X),U}) &= \{ x \in X_0 \mid x \in \varepsilon_X^{-1}(\Sigma_{\mathsf{Lc}(X),U}) \} = \{ x \in X_0 \mid \varepsilon_X(x) \in \Sigma_{\mathsf{Lc}(X),U} \} \\ &= \{ x \in X_0 \mid \mathcal{U}_X(x) \in \Sigma_{\mathsf{Lc}(X),U} \} = \{ x \in X_0 \mid U \in \mathcal{U}_X(x) \} \\ &= \{ x \in X_0 \mid x \in U \} = U \end{split}$$

が成り立つ. 故に、任意の  $U \in Lc(X)_0$  に対して

$$\varepsilon_X^{-1}(\Sigma_{\mathsf{Lc}(X),U}) = U \in \tau_X$$

であり,  $\varepsilon_X : X \to \mathsf{Sp}(\mathsf{Lc}(X))$  は **Top** の射である.

続いて,  $L \in Ob(\mathbf{Loc})$  を取る.  $a \in L_0$  に対して,  $\tau_{\mathsf{Sp}(L)}$  の定義から

$$\Sigma_{L,a} \in \tau_{\mathsf{Sp}(L)} = (\mathsf{Lc}(\mathsf{Sp}(L))_0)$$

だから,

$$(\eta_L)^* : L_0 \to \mathsf{Lc}(\mathsf{Sp}(L))_0, a \mapsto \Sigma_{L,a}$$

が定まる.

命題 **4.3.**  $L \in \mathrm{Ob}(\mathbf{Loc})$  に対して,  $(\eta_L)^* : L \to \mathsf{Lc}(\mathsf{Sp}(L))$  は **Frm** の射である. 即ち,

$$\eta_L \coloneqq ((\eta_L)^*)_* \colon \operatorname{Lc}(\operatorname{Sp}(L)) \to L$$

は Loc の射である.

 $Proof.\ a\leq_L b$  を満たす  $a,b\in L_0$  を任意に取る. 任意の  $\mathcal{F}\in\mathsf{Sp}(L)_0$  に対して,  $\mathcal{F}\in\Sigma_{L,a}$  ならば,  $a\in\mathcal{F}$  であり,  $a\leq_L b$  と定義 3.1, 3 より  $b\in\mathcal{F}$  であり,  $\mathcal{F}\in\Sigma_{L,b}$  だから,  $\Sigma_{L,a}\subseteq\Sigma_{L,b}$ , 即ち

$$(\eta_L^*)(a) = \Sigma_{L,a} \leq_{\mathsf{Lc}(\mathsf{Sp}(L))} \Sigma_{L,b} = (\eta_L^*)(b)$$

を得る. 故に,  $(\eta_L)^*$  は  $\mathbf{Pos}$  の射である. 任意の  $L_0' \subseteq L_0$  に対して,命題 3.2 の証明より

$$(\eta_L)^* \left( \bigvee_L L_0' \right) = \sum_{L, \bigvee_L L_0'} \sum_{a \in L_0'} \sum_{L, a}$$

$$= \bigcup_{a \in L_0'} (\eta_L)^* (a) = \bigcup_{L \in (\operatorname{Sp}(L))} (\eta_L)^* (L_0') = \bigvee_{L \in (\operatorname{Sp}(L))} (\eta_L)^* (L_0')$$

であり、任意の  $a,b \in L_0$  に対して、命題 3.2 の証明より

$$\eta_L)^*(a \wedge_L b) = \Sigma_{L,a \wedge_L b} = \Sigma_{L,a} \cap \Sigma_{L,b} 
= (\eta_L)^*(a) \cap (\eta_L)^*(b) = (\eta_L)^*(a) \wedge_{\mathsf{Lc}(\mathsf{Sp}(L))} (\eta_L)^*(b)$$

であり、命題 3.2 の証明より

$$(\eta_L)^*(1_L) = \Sigma_{L,1_L} = \operatorname{Sp}(L)_0 = 1_{\operatorname{Lc}(\operatorname{Sp}(L))}$$

である. 故に,  $(\eta_L)^*$ :  $L \to \mathsf{Lc}(\mathsf{Sp}(L))$  は **Frm** の射であり,  $\eta_L = ((\eta_L)^*)_*$  は **Loc** の射である.

 $\operatorname{Hom}_{\mathbf{Loc}}(\mathsf{Lc}(-),-),\operatorname{Hom}_{\mathbf{Top}}(-,\mathsf{Sp}(-))$ は $\mathbf{Top}^{\mathrm{op}} imes\mathbf{Loc}$ から $\mathbf{Set}$ への関手である.

$$Ob(\mathbf{Top}^{op} \times \mathbf{Loc}) = Ob(\mathbf{Top}^{op}) \times Ob(\mathbf{Loc}) = Ob(\mathbf{Top}) \times Ob(\mathbf{Loc})$$

であることに注意する.  $\langle X, L \rangle \in \mathrm{Ob}(\mathbf{Top}^{\mathrm{op}} \times \mathbf{Loc})$  を取る.  $X \in \mathrm{Ob}(\mathbf{Top})$  かつ  $L \in \mathrm{Ob}(\mathbf{Loc})$  である.  $\mathbf{Lc}(X), L \in \mathrm{Ob}(\mathbf{Loc})$  である.  $\mathbf{Loc}$  の射  $\varphi \colon \mathsf{Lc}(X) \to L$  に対

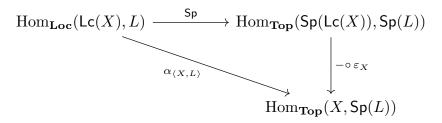
して、 $\mathbf{Top}$  の射  $\mathsf{Sp}(\varphi)$ :  $\mathsf{Sp}(\mathsf{Lc}(X)) \to \mathsf{Sp}(L)$  が定まり、命題 4.2 で定めた  $\mathbf{Top}$  の射  $\varepsilon_X \colon X \to \mathsf{Sp}(\mathsf{Lc}(X))$  との合成

$$\operatorname{Sp}(\varphi) \circ \varepsilon_X \colon X \to \operatorname{Sp}(\operatorname{Lc}(X)) \to \operatorname{Sp}(L)$$

が定まる. 故に、各 $\langle X, L \rangle \in \mathrm{Ob}(\mathbf{Top^{op}} \times \mathbf{Loc})$  に対して

$$\alpha_{\langle X,L\rangle} \colon \operatorname{Hom}_{\mathbf{Loc}}(\mathsf{Lc}(X),L) \to \operatorname{Hom}_{\mathbf{Top}}(X,\mathsf{Sp}(L)), \varphi \mapsto \mathsf{Sp}(\varphi) \circ \varepsilon_X$$

が定まる:



一方で、 $X, \mathsf{Sp}(L) \in \mathsf{Ob}(\mathbf{Top})$  であり、 $\mathbf{Top}$  の射  $f \colon X \to \mathsf{Sp}(L)$  に対して、 $\mathbf{Loc}$  の射  $\mathsf{Lc}(f) \colon \mathsf{Lc}(X) \to \mathsf{Lc}(\mathsf{Sp}(L))$  が定まり、命題 4.3 で定めた  $\mathbf{Loc}$  の射  $\eta_L \colon \mathsf{Lc}(\mathsf{Sp}(L)) \to L$  との合成

$$\eta_L \circ \mathsf{Lc}(f) \colon \mathsf{Lc}(X) \to \mathsf{Lc}(\mathsf{Sp}(L)) \to L$$

が定まる. 故に、各 $\langle X, L \rangle \in \mathrm{Ob}(\mathbf{Top^{op}} \times \mathbf{Loc})$  に対して

$$\beta_{(X,L)} : \operatorname{Hom}_{\mathbf{Top}}(X, \operatorname{Sp}(L)) \to \operatorname{Hom}_{\mathbf{Loc}}(\operatorname{Lc}(X), L), f \mapsto \eta_L \circ \operatorname{Lc}(f)$$

が定まる:

$$\operatorname{Hom}_{\mathbf{Top}}(X,\operatorname{Sp}(L)) \xrightarrow{\operatorname{Lc}} \operatorname{Hom}_{\mathbf{Loc}}(\operatorname{Lc}(X),\operatorname{Lc}(\operatorname{Sp}(L)))$$

$$\downarrow^{\eta_L \circ -}$$

$$\operatorname{Hom}_{\mathbf{Loc}}(\operatorname{Lc}(X),L)$$

写像の族  $\alpha$ ,  $\beta$  を

$$\alpha \coloneqq \langle \alpha_{\langle X, L \rangle} \rangle_{\langle X, L \rangle \in \mathrm{Ob}(\mathbf{Top^{\mathrm{op}}} \times \mathbf{Loc})}, \ \beta \coloneqq \langle \beta_{\langle X, L \rangle} \rangle_{\langle X, L \rangle \in \mathrm{Ob}(\mathbf{Top^{\mathrm{op}}} \times \mathbf{Loc})}$$

と定める.  $\langle X, L \rangle, \langle Y, M \rangle \in \mathrm{Ob}(\mathbf{Top}^{\mathrm{op}} \times \mathbf{Loc})$  に対して,  $X, Y \in \mathrm{Ob}(\mathbf{Top})$  かつ  $L, M \in \mathrm{Ob}(\mathbf{Loc})$  であり,

$$\operatorname{Hom}_{\mathbf{Top}^{\mathrm{op}} \times \mathbf{Loc}}(\langle X, L \rangle, \langle Y, M \rangle) = \operatorname{Hom}_{\mathbf{Top}^{\mathrm{op}}}(X, Y) \times \operatorname{Hom}_{\mathbf{Loc}}(L, M)$$
$$= \operatorname{Hom}_{\mathbf{Top}}(Y, X) \times \operatorname{Hom}_{\mathbf{Loc}}(L, M)$$

であることに注意する.

命題 **4.4.**  $\alpha$  は  $\operatorname{Hom}_{\mathbf{Loc}}(\mathsf{Lc}(-), -)$  から  $\operatorname{Hom}_{\mathbf{Top}}(-, \mathsf{Sp}(-))$  への自然変換である.

*Proof.*  $\langle X, L \rangle, \langle Y, M \rangle \in \text{Ob}(\mathbf{Top^{op}} \times \mathbf{Loc}) \succeq$ 

$$\langle f, \psi \rangle \in \operatorname{Hom}_{\mathbf{Top}^{\mathrm{op}} \times \mathbf{Loc}}(\langle X, L \rangle, \langle Y, M \rangle)$$

を任意に取る. **Top** の射  $f: Y \to X$  と **Loc** の射  $\psi: L \to M$  が定まる. **Loc** の射  $\varphi: \mathsf{Lc}(X) \to L$  を任意に取る. 任意の  $y \in Y_0$  に対して,

$$(\operatorname{Sp}(\operatorname{Lc}(f)) \circ \varepsilon_Y)(y) = \operatorname{Sp}(\operatorname{Lc}(f))(\varepsilon_Y(y)) = \operatorname{Sp}(\operatorname{Lc}(f))(\mathcal{U}_Y(y))$$

$$= (\operatorname{Lc}(f)^*)^{-1}(\mathcal{U}_Y(y))$$

$$= \{V \in \operatorname{Lc}(X)_0 \mid V \in (\operatorname{Lc}(f)^*)^{-1}(\mathcal{U}_Y(y))\}$$

$$= \{V \in \tau_X \mid V \in (\operatorname{Lc}(f)^*)^{-1}(\mathcal{U}_Y(y))\}$$

$$= \{V \in \tau_X \mid \operatorname{Lc}(f)^*(V) \in \mathcal{U}_Y(y)\}$$

$$= \{V \in \tau_X \mid f^{-1}(V) \in \mathcal{U}_Y(y)\}$$

$$= \{V \in \tau_X \mid y \in f^{-1}(V)\} = \{V \in \tau_X \mid f(y) \in V\}$$

$$= \mathcal{U}_X(f(y)) = \varepsilon_X(f(y)) = (\varepsilon_X \circ f)(y)$$

が成り立つので、図式

$$Y \xrightarrow{f} X$$

$$\downarrow^{\varepsilon_Y} \qquad \qquad \downarrow^{\varepsilon_X}$$

$$\operatorname{Sp}(\operatorname{Lc}(Y)) \xrightarrow{\operatorname{Sp}(\operatorname{Lc}(f))} \operatorname{Sp}(\operatorname{Lc}(X))$$

は可換である. 故に、

$$\begin{split} ((\operatorname{\mathsf{Sp}}(\psi) \circ - \circ f) \circ \alpha_{\langle X, L \rangle})(\varphi) &= (\operatorname{\mathsf{Sp}}(\psi) \circ - \circ f)(\alpha_{\langle X, L \rangle}(\varphi)) \\ &= (\operatorname{\mathsf{Sp}}(\psi) \circ - \circ f)(\operatorname{\mathsf{Sp}}(\varphi) \circ \varepsilon_X) \\ &= \operatorname{\mathsf{Sp}}(\psi) \circ \operatorname{\mathsf{Sp}}(\varphi) \circ \varepsilon_X \circ f \\ &= \operatorname{\mathsf{Sp}}(\psi) \circ \operatorname{\mathsf{Sp}}(\varphi) \circ \operatorname{\mathsf{Sp}}(\operatorname{\mathsf{Lc}}(f)) \circ \varepsilon_Y \\ &= \operatorname{\mathsf{Sp}}(\psi \circ \varphi \circ \operatorname{\mathsf{Lc}}(f)) \circ \varepsilon_Y \\ &= \alpha_{\langle Y, M \rangle}(\psi \circ \varphi \circ \operatorname{\mathsf{Lc}}(f)) \\ &= \alpha_{\langle Y, M \rangle}((\psi \circ - \circ \operatorname{\mathsf{Lc}}(f))(\varphi)) \\ &= (\alpha_{\langle Y, M \rangle} \circ (\psi \circ - \circ \operatorname{\mathsf{Lc}}(f)))(\varphi) \end{split}$$

が成り立ち, 図式

は可換である. 従って, 自然変換

$$\alpha \colon \operatorname{Hom}_{\mathbf{Loc}}(\mathsf{Lc}(-), -) \to \operatorname{Hom}_{\mathbf{Top}}(-, \mathsf{Sp}(-))$$

が定まる. □

命題 **4.5.**  $\beta$  は  $\operatorname{Hom}_{\mathbf{Top}}(-,\mathsf{Sp}(-))$  から  $\operatorname{Hom}_{\mathbf{Loc}}(\mathsf{Lc}(-),-)$  への自然変換である.

Proof.  $\langle X, L \rangle, \langle Y, M \rangle \in \text{Ob}(\mathbf{Top}^{\text{op}} \times \mathbf{Loc}) \succeq$ 

$$\langle g, \varphi \rangle \in \operatorname{Hom}_{\mathbf{Top}^{\mathrm{op}} \times \mathbf{Loc}}(\langle X, L \rangle, \langle Y, M \rangle)$$

を任意に取る. **Top** の射  $g: Y \to X$  と **Loc** の射  $\varphi: L \to M$  が定まる. **Top** の射  $f: X \to \mathsf{Sp}(L)$  を任意に取る. 任意の  $a \in M$  に対して, 命題 3.4 の証明より

$$(\eta_L^* \circ \varphi^*)(a) = \eta_L^*(\varphi^*(a)) = \Sigma_{L,\varphi^*(a)} = (\operatorname{Sp}(\varphi)^*)^{-1}(\Sigma_{M,a})$$
$$= \operatorname{Lc}(\operatorname{Sp}(\varphi))^*(\Sigma_{M,a}) = \operatorname{Lc}(\operatorname{Sp}(\varphi))^*(\eta_M^*(a)) = (\operatorname{Lc}(\operatorname{Sp}(\varphi))^* \circ \eta_M^*)(a)$$

が成り立つので,

$$\begin{split} \varphi \circ \eta_L &= (\varphi^*)_* \circ (\eta_L^*)_* = (\eta_L^* \circ \varphi^*)_* \\ &= (\mathsf{Lc}(\mathsf{Sp}(\varphi))^* \circ \eta_M^*)_* = (\eta_M^*)_* \circ (\mathsf{Lc}(\mathsf{Sp}(\varphi))^*)_* = \eta_M \circ \mathsf{Lc}(\mathsf{Sp}(\varphi)) \end{split}$$

が成り立ち, 図式

$$\begin{array}{c|c} \operatorname{Lc}(\operatorname{Sp}(L)) & \xrightarrow{\operatorname{Lc}(\operatorname{Sp}(\varphi))} & \operatorname{Lc}(\operatorname{Sp}(M)) \\ \downarrow^{\eta_L} & & \downarrow^{\eta_M} \\ L & \xrightarrow{\varphi} & M \end{array}$$

は可換である. 故に、

$$\begin{split} ((\varphi \circ - \circ \mathsf{Lc}(g)) \circ \beta_{\langle X, L \rangle})(f) &= (\varphi \circ - \circ \mathsf{Lc}(g))(\beta_{\langle X, L \rangle}(f)) \\ &= (\varphi \circ - \circ \mathsf{Lc}(g))(\eta_L \circ \mathsf{Lc}(f)) \\ &= \varphi \circ \eta_L \circ \mathsf{Lc}(f) \circ \mathsf{Lc}(g) \\ &= \eta_M \circ \mathsf{Lc}(\mathsf{Sp}(\varphi)) \circ \mathsf{Lc}(f) \circ \mathsf{Lc}(g) \\ &= \eta_M \circ \mathsf{Lc}(\mathsf{Sp}(\varphi) \circ f \circ g) = \beta_{\langle Y, M \rangle}(\mathsf{Sp}(\varphi) \circ f \circ g) \\ &= \beta_{\langle Y, M \rangle}((\mathsf{Sp}(\varphi) \circ - \circ g)(f)) \\ &= (\beta_{\langle Y, M \rangle} \circ (\mathsf{Sp}(\varphi) \circ - \circ g))(f) \end{split}$$

が成り立ち, 図式

は可換である.従って,自然変換

$$\beta \colon \operatorname{Hom}_{\mathbf{Top}}(-, \operatorname{Sp}(-)) \to \operatorname{Hom}_{\mathbf{Loc}}(\operatorname{Lc}(-), -)$$

が定まる.

命題 **4.6.**  $\beta \odot \alpha = \mathrm{id}_{\mathrm{Hom}_{Loc}(\mathsf{Lc}(-),-)}$  である.

Proof. 任意の  $\langle X, L \rangle \in \mathrm{Ob}(\mathbf{Top^{\mathrm{op}}} \times \mathbf{Loc})$  と  $\mathbf{Loc}$  の射  $\varphi \colon \mathsf{Lc}(X) \to L$  と  $a \in L_0$  に対して,命題 3.4,命題 4.2 の証明より

$$\begin{split} (\eta_L \circ \mathsf{Lc}(\mathsf{Sp}(\varphi)) \circ \mathsf{Lc}(\varepsilon_X))^*(a) &= (\mathsf{Lc}(\varepsilon_X)^* \circ \mathsf{Lc}(\mathsf{Sp}(\varphi))^* \circ \eta_L^*)(a) \\ &= \mathsf{Lc}(\varepsilon_X)^* (\mathsf{Lc}(\mathsf{Sp}(\varphi))^* (\Sigma_{L,a})) \\ &= \mathsf{Lc}(\varepsilon_X)^* (\mathsf{Sp}(\varphi)^{-1} (\Sigma_{L,a})) \\ &= \mathsf{Lc}(\varepsilon_X)^* (\Sigma_{\mathsf{Lc}(X),\varphi^*(a)}) \\ &= \varepsilon_X^{-1} (\Sigma_{\mathsf{Lc}(X),\varphi^*(a)}) = \varphi^*(a) \end{split}$$

だから,

$$\eta_L \circ \mathsf{Lc}(\mathsf{Sp}(\varphi)) \circ \mathsf{Lc}(\varepsilon_X) = ((\eta_L \circ \mathsf{Lc}(\mathsf{Sp}(\varphi)) \circ \mathsf{Lc}(\varepsilon_X))^*)_* = (\varphi^*)_* = \varphi$$

であり、任意の  $\langle X, L \rangle \in \mathrm{Ob}(\mathbf{Top^{op}} \times \mathbf{Loc})$  と  $\mathbf{Loc}$  の射  $\varphi \colon \mathsf{Lc}(X) \to L$  に対して、

$$(\beta \odot \alpha)_{\langle X,L \rangle}(\varphi) = (\beta_{\langle X,L \rangle} \circ \alpha_{\langle X,L \rangle})(\varphi) = \beta_{\langle X,L \rangle}(\alpha_{\langle X,L \rangle}(\varphi)) = \beta_{\langle X,L \rangle}(\mathsf{Sp}(\varphi) \circ \varepsilon_X)$$

$$= \eta_L \circ \mathsf{Lc}(\mathsf{Sp}(\varphi) \circ \varepsilon_X) = \eta_L \circ \mathsf{Lc}(\mathsf{Sp}(\varphi)) \circ \mathsf{Lc}(\varepsilon_X) = \varphi$$
$$= \mathrm{id}_{\mathsf{Hom}_{\mathbf{Loc}}(\mathsf{Lc}(X), L)}(\varphi) = \left(\mathrm{id}_{\mathsf{Hom}_{\mathbf{Loc}}(\mathsf{Lc}(-), -)}\right)_{\langle X, L \rangle}(\varphi)$$

であり、任意の  $\langle X, L \rangle \in \mathrm{Ob}(\mathbf{Top^{op}} \times \mathbf{Loc})$  に対して

$$(\beta \odot \alpha)_{\langle X,L \rangle} = (\mathrm{id}_{\mathrm{Hom}_{\mathbf{Loc}}(\mathsf{Lc}(-),-)})_{\langle X,L \rangle}$$

であり、
$$\beta \odot \alpha = \mathrm{id}_{\mathrm{Hom}_{\mathbf{Loc}}(\mathsf{Lc}(-),-)}$$
 を得る.

命題 4.7.  $\alpha \odot \beta = \mathrm{id}_{\mathrm{Hom}_{\mathsf{Top}}(-,\mathsf{Sp}(-))}$  である.

*Proof.* 任意の  $\langle X, L \rangle \in \text{Ob}(\mathbf{Top}^{\text{op}} \times \mathbf{Loc})$  と  $\mathbf{Top}$  の射  $f: X \to \mathsf{Sp}(L)$  と  $x \in X_0$  に 対して、命題 4.4 の証明より

$$(\operatorname{Sp}(\eta_L) \circ \operatorname{Sp}(\operatorname{Lc}(f)) \circ \varepsilon_X)(x) = \operatorname{Sp}(\eta_L)(\operatorname{Sp}(\operatorname{Lc}(f))(\varepsilon_X(x)))$$

$$= \operatorname{Sp}(\eta_L)(\operatorname{Sp}(\operatorname{Lc}(f))(\mathcal{U}_X(x)))$$

$$= \operatorname{Sp}(\eta_L)((\operatorname{Lc}(f)^*)^{-1}(\mathcal{U}_X(x)))$$

$$= \operatorname{Sp}(\eta_L)(\mathcal{U}_{\operatorname{Sp}(L)}(f(x)))$$

$$= (\eta_L^*)^{-1}(\mathcal{U}_{\operatorname{Sp}(L)}(f(x)))$$

$$= \{a \in L_0 \mid a \in (\eta_L^*)^{-1}(\mathcal{U}_{\operatorname{Sp}(L)}(f(x)))\}$$

$$= \{a \in L_0 \mid \eta_L^*(a) \in \mathcal{U}_{\operatorname{Sp}(L)}(f(x))\}$$

$$= \{a \in L_0 \mid f(x) \in \mathcal{L}_{L,a}\}$$

$$= \{a \in L_0 \mid a \in f(x)\} = f(x)$$

だから、任意の  $\langle X, L \rangle \in \mathrm{Ob}(\mathbf{Top}^{\mathrm{op}} \times \mathbf{Loc})$  と  $\mathbf{Top}$  の射  $f \colon X \to \mathsf{Sp}(L)$  に対して、

$$\begin{split} (\alpha \odot \beta)_{\langle X,L \rangle}(f) &= (\alpha_{\langle X,L \rangle} \circ \beta_{\langle X,L \rangle})(f) = \alpha_{\langle X,L \rangle}(\beta_{\langle X,L \rangle}(f)) \\ &= \alpha_{\langle X,L \rangle}(\eta_L \circ \mathsf{Lc}(f)) = \mathsf{Sp}(\eta_L \circ \mathsf{Lc}(f)) \circ \varepsilon_X \\ &= \mathsf{Sp}(\eta_L) \circ \mathsf{Sp}(\mathsf{Lc}(f)) \circ \varepsilon_X = f \\ &= \mathrm{id}_{\mathrm{Hom}_{\mathbf{Top}}(X,\mathsf{Sp}(L))}(f) = \left(\mathrm{id}_{\mathrm{Hom}_{\mathbf{Top}}(-,\mathsf{Sp}(-))}\right)_{\langle X,L \rangle}(f) \end{split}$$

だから、任意の  $\langle X, L \rangle \in \mathrm{Ob}(\mathbf{Top^{\mathrm{op}}} \times \mathbf{Loc})$  に対して

$$(\alpha \odot \beta)_{\langle X, L \rangle} = \left( \mathrm{id}_{\mathrm{Hom}_{\mathbf{Top}}(-, \mathsf{Sp}(-))} \right)_{\langle X, L \rangle}$$

であり, 
$$\alpha \odot \beta = \mathrm{id}_{\mathrm{Hom}_{\mathbf{Top}}(-,\mathsf{Sp}(-))}$$
 を得る.

#### 命題 4.6, 命題 4.7より, 命題 4.4で定めた自然変換

$$\alpha \colon \operatorname{Hom}_{\mathbf{Loc}}(\mathsf{Lc}(-), -) \to \operatorname{Hom}_{\mathbf{Top}}(-, \mathsf{Sp}(-))$$

は自然同型である. 故に、 $\operatorname{Hom}_{\mathbf{Loc}}(\mathsf{Lc}(-),-) \simeq \operatorname{Hom}_{\mathbf{Top}}(-,\mathsf{Sp}(-))$  であり、 $\langle \mathsf{Lc},\mathsf{Sp} \rangle$  は随伴を定めることが示された.

## References

[Leh15] Lehner G. Pointless Topology. Seminar in Analysis, 2015.

[PP12] Picado J., Pultr A. Frames and Locales. Front. Math. Springer Basel, 2012.